

水稻 トビイロウンカに注意！

トビイロウンカ(秋ウンカ)とは

- ・日本では越冬できず、主に6～7月の梅雨期に下層ジェット気流に乗って中国大陸南西部から成虫が飛来する。(広東省の発生は平年より多い)
- ・水稻で増殖し、雌の短翅型成虫が多くなると急激に増える。



△6月20日に注意報が発令されました△

- ・例年より早い時期にトビイロウンカの幼虫が確認されました
- ・今年は坪枯れが早期米でも発生する可能性が高いため、要注意です！！

～トビイロウンカの発生パターン～

1世代のサイクル:約30日間
卵期:7日間 幼虫期:14日間



海外から
成虫飛来



第1世代
幼虫



第2世代幼虫

第3世代幼虫



坪枯れ



6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月
移植 | 分けつ期 | 出穂 | 収穫

- ・ **出穂期前後の基幹防除は必ず実施**しましょう。
- ・ 株元へ薬剤散布ができない場合は**出穂前の粒剤散布**を行いましょ
- ・ 増殖すると防除困難なため、早めに防除しましょ！！

大分県 農林水産部 水田畑地化・集落営農課
農林水産研究指導センター農業研究部 病害虫対策チーム

病害虫の
発生情報
をチェック！

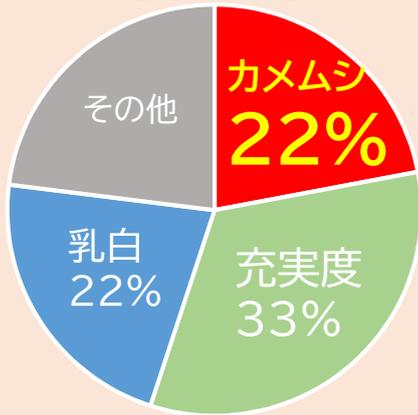


水稻 斑点米カメムシに注意！！

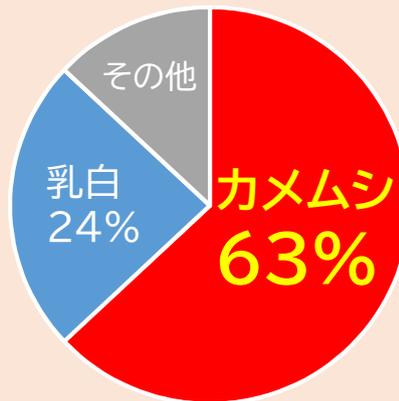
近年、**斑点米カメムシ**の発生が増加しています。
中でも**イネカメムシ**の発生が県北東部を中心に拡大しています。
斑点米カメムシは出穂後に籾を吸汁し、**等級低下**や**不稔米**を発生させ**収量に影響**します。

[農産物検査での格落ち理由(R4~5)]

【県全体】



【カメムシ多発地域抜粋】



【イネカメムシ】



[収益面でみた不念と斑点米による収量・品質低下の影響(一例)]

10aあたり	6俵 (360kg)	7俵 (420kg)	8俵 (480kg)
1等	70,020	81,690	93,360
2等	68,220	79,590	90,960
3等	62,100	72,450	82,800

※JA概算金(R5品種平均)

(一例)

例年1等:8俵/10aとれるけど、カメムシで
2等:7俵/10aになってしまった。
△13,770円/10aの**収益減**に
なってしまった！



カメムシの発生量が見られた場合や過去発生量が多く被害リスクが高い地域は、防除を徹底してください！！

～農薬例～

※農薬は**穂揃期**とその**7~10日後**の2回散布を基本とする
※イネカメムシが見られる場合は**出穂直後**に1回目を散布する

農薬名	使用時期	希釈倍率/10a	使用液量/10a
スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	収穫7日前まで	2,000倍	60~150L
キラップフロアブル	収穫14日前まで	1,000~2,000倍	60~200L
トレボン乳剤		2,000倍	60~150L

大分県 農林水産部 水田畑地化・集落営農課
農林水産研究指導センター農業研究部 病害虫対策チーム

病害虫の
発生情報
をチェック！

